

■ 化学肥料が先行、 未熟堆肥は障害？

植え付け後スタートダッシュのとくによいのは化学肥料区で、葉の枚数と大きさが群を抜き、次いで完熟堆肥区、未熟堆肥区の順です（右の写真）。3週間後の葉齢は1位化学肥料区 15.5、2位完熟堆肥区 10.5、3位未熟堆肥区 10.3です。すでに枯れて落葉している葉は、化学肥料区と完熟堆肥区がそれぞれ1枚なのに対して、未熟堆肥区は3枚で、初期のダメージの大きさを示しています。

ダメージとは、未熟堆肥の分解によって根に障害が出たこと、施した窒素が堆肥の分解のために消費されキャベツの吸収が不足したことの2点が考えられます。

■ 葉と根にパワーがあるのは？

さて、化学肥料の速効性という特技が見事に発揮されていますが、葉を見ると下の写真のように、日中の日ざしでしおれやすく、大きいのに張りがありません。完熟堆肥区の葉はピンとしていて、株の元気さでは完熟堆肥区が優位にあるといえます。土の保水性・通気性がともによいためでしょう。

そこでプランターから1株ずつ抜いて、根を洗い出してみました（上の写真）。力強く伸びる白い太根とそれから出る細根の両方とも多いのは完熟堆肥区です。未熟堆肥区は白い太根はありますが細根は多くありません。そして、化学肥料区は、茶色くなった細根は多いものの白い太根が少なく、生育前半で根の力が尽きはじめたことを感じさせます。



植え付け3週間後の9月28日。左から完熟堆肥区、未熟堆肥区、化学肥料区（次の写真も同じ）。初期生育は化学肥料区が大きくリード



9月28日の根の比較。化学肥料区はパワーが落ちてきた？



化学肥料区は大きいけれど、葉のしおれが強い